山野での

クマとの不幸な事故を避けるために

会わないための注意編

よく
クマに会ったら
どうすればいい？
…という声を聞きますが

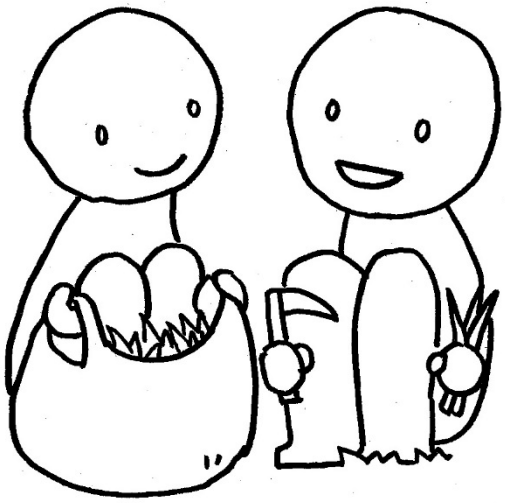
まずは会わないための注意を！

不幸な事故を避けるには
1に会わない
2に会わない
3・4も会わないし
5も会わない
くらい
会わないことが
なにより大事です

山に入るときの
気を付けるポイントを
説明します！

2人以上で行動を！

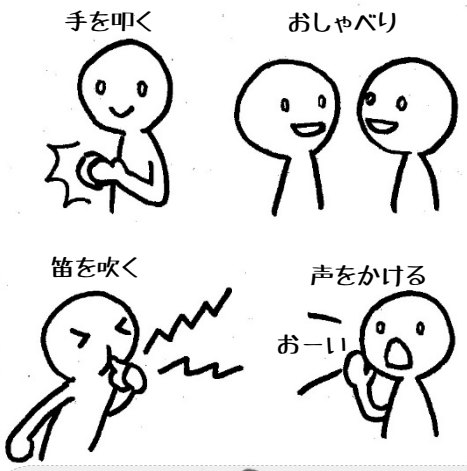
- グループ行動中の人が襲われる事例は少ないです
- 滑落や突然の体調不良など、万が一の場合にも誰かがいれば助けを呼んでもらえるので、クマ事故対策に限らず複数人で行動することは大事です



2人以上で出かけても、山の中で別れてしまっては単独行動と一緒です！
少なくともお互い見える範囲で行動しましょう。

音を出して！

- 「バッタリ遭遇パターン」の事故を避けるために重要なポイント！
- 基本的にクマは人を避けて行動しています。つまり、人の存在を知らせて、クマによけてもらうという考え方です



ラジオやクマ鈴も良いのですが、
ずーーーっと音が鳴っていると
自分が周囲の音を聞き取りにくくなるので
注意が必要です。
藪のガサガサ音や、
枝をパキパキ踏む音がしないか、
耳を澄ましながら行動しましょう。
川のそばなど音が聞こえづらい場所も
要注意です。
雨や風の強い日など、
音の聞こえづらい日は
山野に入るのは控えた方が良いですね。

山野での

クマとの不幸な事故を避けるために

どういうときに事故が起こるの？編

※事故はケースバイケースですが、主なパターン5つにまとめてみました（これらが組み合わさって事故になることもあります）。

バッタリ遭遇

お互いに気付かず至近距離でいきなり遭遇した結果、クマが焦ったり驚いたりして攻撃に移るパターン。

守りたいものがあったから…

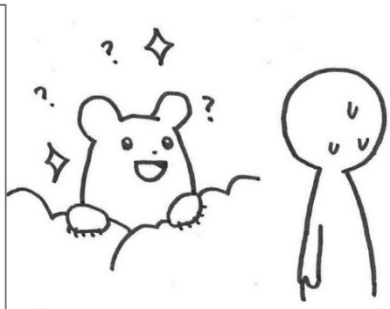
シカの死体のような大きな食べ物をクマがキープしているときや、子グマを守りたいとき、近寄ってきた人を攻撃するパターン。

やりすごそうと思ったのですが…

人に気付いたクマが、藪などに隠れてやりすごそうとすることがあります。やりすごすつもりが、近付いてくる人に我慢できなくなって飛び出し、襲ってしまうパターン。

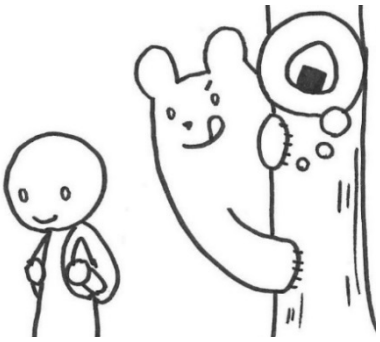
好奇心旺盛な若者が…

親離れしたばかりの若グマが、好奇心から人間に近寄ってしまうことがあります。このときに慌てて背中を見せて逃げると追いかけられたり、追いかけられる途中で倒されたりして事故になるパターン。



襲おうと思って（確信犯）

クマは基本的に人を避けるので、このパターンは**ごく稀**。ゴミの味をしめて人と食べ物を結びつけてしまったクマや、餌付けされたクマ、一度人を襲って人を食べ物と認識してしまったクマは積極的に人を襲うことがあります。



- **大原則**はしっかり**音を立てる**こと。クマが（子連れでも）余裕を持って移動できるよう、**遠くからでも聞こえるように**音を立てるのがきほんのき！
- 動物のにおいや、血・腐った肉などのにおいがする場所には近づかない
- 子グマを見ても近づかない
- それでも万が一出会ってしまい、万が一クマが向かってきた場合は、**冷静に抵抗**（次ページ参照）してください。

冷静にクマとの距離をとりましょう。万が一クマが向かってきた場合も**冷静に**。抵抗してください（次ページ参照）

＊このようなクマは鈴の音などの人間の気配に近寄ってくる**かも**しれません。

しかし、だからといってこういったごく一部のクマのために静かに行動してしまうと、本来避けられたはずの大多数のクマとの「バッタリ遭遇」が回避できなくなります。「音を出す」はとにかくクマ事故対策の基本中の基本です。

山野での

クマとの不幸な事故を避けるために

万が一出会ってしまったとき編

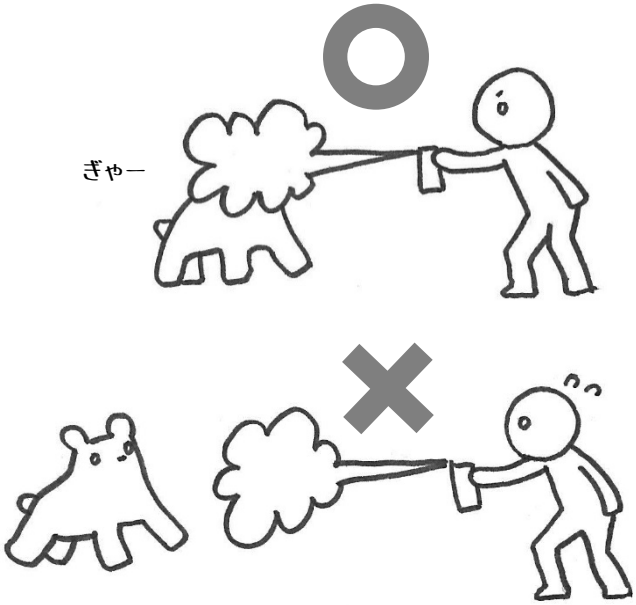
とにかく落ち着け

慌てるし怖いし逃げたくなりますが、冷静に。

- クマの方を向いたままゆっくり距離をとりましょう
- 十分な距離（クマが安心できる距離・逃げられる距離）をとり、クマが立ち去れるようにしましょう
- 無理に先に進まず、来た道を引き返しましょう
- 背中を見せて走って逃げてはいけません！追いかけられたり、攻撃を誘発する可能性があります！

いざとなったらクマスプレー

いざとなったら腹を括って、**確実にクマの顔にスプレーできる距離**（目安は3ｍ）まで引き付けてから一気に全量を顔にかけましょう



- ナタで抵抗したり柔道技をしかけたりした人の話をニュースなどで聞きますが、それはつまり距離ゼロでクマと戦うということ。クマスプレーがあれば肉弾戦に持ち込まずに済みます。
- **すぐ取り出せるように携行**しましょう。いざというときにリュックの中では使えませんよ！
- 出かける前には必ず**使用期限を要チェック**！スプレー製品なので、古いとガス圧が下がり、十分な飛距離が出ないことがあります。

やってはいけない

あなたが逃げる時間を少しくらいは稼げる**かも**しれません。

でも、これで「人を脅かせば食べ物が手に入る」ことを覚えたクマの出来上がりです。あなたのことをさらに追ってきたり、後日他の人に会ったときに確信犯的に襲ったりする可能性があり、**非常に危険**です。

※ただし、万が一持ち物を取られた場合は諦めて！無理に取り返さないように！

山野での

クマとの不幸な事故を避けるために

まとめ編

ポイントはシンプル！

一．とにかくクマに会わないこと
一．会っても慌てないこと
一．慌てないための心構え・備え・イメトレを
（藪があればクマいると思え）

「クマに会って落ち着いていられるわけがない！」
と思うかもしれません。
でも、どんなときに事故が起きるのか、
事故を回避するにはどうしたら良いのかを知り、
「こんなときはこう行動しよう」
と心の準備をしておくだけで
ずいぶん違うと思います。

「クマスプレーとっさに噴射できないよ！」
と思うかもしれません。
イメトレしましょう！
サッとスプレーを出して噴射できるように準備を。
（練習用のスプレーも販売されています）

クマだって人との遭遇は望んでいません。
クマに会わない工夫を怠らないこと。
万が一会ってしまった場合に備えること。
楽しく安全に、野外活動を楽しみましょう！

クマのこと、
きちんと知って
楽しい野外活動を！

簡単にまとめましたが、クマ対策や事故事例など
もっと詳しく知りたい方はこちらを参考にどうぞ↓
クマとの遭遇事例や事故事例は対策を考える上でたいへん
参考になります。

詳しくは

■ 知床財団ウェブサイト「ヒグマ対処法」
http://www.shiretoko.or.jp/library/bear/

■ 人身事故情報のとりまとめに関する報告書（日本クマネットワーク，2011）
http://www.japanbear.org/report/report-1911.html

■ 鹿角市におけるツキノワグマによる人身事故調査報告書（日本クマネットワーク，2016）
http://www.japanbear.org/report/report-1932.html

■ 熊！に出会った襲われた（つり人社書籍編集部　編，2016）